

平成29年11月29日

手術室内での筋弛緩薬(エスラックス 50mg/5.0ml)の紛失について

独立行政法人国立病院機構
大分医療センター 院長

平成29年11月21日(火)12時30分頃、当院手術室の薬品保冷庫にて保管している「非脱分極性麻酔用筋弛緩剤ロクロニウム臭化物注射液(商品名;エスラックス®静注50mg/5.0ml)」の本数を看護師が確認したところ、2本不足していることが判明しました。

直ちに院内における使用数・在庫数の照会、帳簿等の調査、関係職員への聴取、手術部内の全てのエリアを確認する一方で、回収できた医療廃棄物・一般ゴミ・洗濯物等の確認も実施しました。調査結果から11月20日(月)の12時15分頃から13時25分頃までの間に不明となっていたことが分かりましたが、現在のところ発見に至ってはおりません。

11月22日(水)の午前中に臨時の医療安全管理委員会を開催し、調査状況の内容を確認したところ、部外者により持ち出された可能性は低いことから、誤って廃棄した可能性が高いと考えておりますが、当該薬剤は毒薬であることから11月22日(水)11時40分に大分市保健所へ紛失を連絡し、同日15時30分から現場確認と聞き取り調査を受けました。また、同日16時40分には大分東警察署にも相談をして18時40分より現場検証及び聞き取り調査を受けております。

今回の事案は毒薬の紛失という重大な事案であることから、関係機関の指導の下で引き続き原因究明に努めると共に、今後の再発防止に向けた以下の対策を講じることとしています。

- ①各症例の麻酔終了時に、使用済み筋弛緩薬本数と未使用筋弛緩薬の本数合計が、手術室に持ち込んだ本数と一致することを麻酔科医と看護師で確認し、看護師が速やかに薬品保冷庫に返納する。
- ②筋弛緩薬の薬品保冷庫より筋弛緩薬を取り出し、または返納した際は確認表にその本数と取り出し、または返納者のサインを記載する。
- ③筋弛緩剤の薬品保冷庫は、日中の職員在室時は施錠していなかったが、昼夜を問わず常に施錠する。

地域並びに関係機関の皆様には多大なご心配をお掛けし、お詫び申し上げます。
引き続き、今まで以上に厳格な薬剤管理に取り組み、再発防止に努めて参ります。